

特集
ふだん着の織姫たち・その9

選手たちの職場での姿やプライベートの一端を紹介する「ふだん着の織姫たち」。シリーズ 9 回目に登場するのは、入団 2 年目の飛躍に懸ける MF 入江未希選手(背番号 18) です。

いりえ みき
入江 未希 選手 (19 歳)

=(株)菓匠三全泉インター店勤務=

●接客のお仕事、楽しいです●

「いらっしゃいませ!」。国道 4 号沿いのお店に入ると、明るく元気な声が迎えてくれた。あずき色のエプロンと三角巾に白のブラウス。ピッチとはまた違ったユニホームがよく似合う。

泉インター店は菓匠三全の「北の母店」。和洋菓子を中心に、扱う品数は多い。店のお薦めを尋ねられたり、日持ちの良いものを希望されたりと、来店するお客様の要望もさまざまだが、テキパキと対応。「伊達巻やロワイヤルテラッセの生パイが人気です。もちろん、萩の月も」と、よどみない。

お辞儀の角度や「気をつけ」の姿勢といった基本動作をはじめ、発声の仕方、接客用語など、身に付けなければならないことはいっぱい。だが「おしゃべりが好き」と話すだけあって、「接客のお仕事は楽しいです」。立ち仕事に慣れるまでの数カ月は「足がパンパンになって、練習中もしんどかった」と振り返るが、高校(兵庫・日ノ本学園)時代のサッカー部の先生から、仕事をしながら競技を続けることの厳しさを聞かされていたから「そんなに大変じゃありません。勤務時間などで三全さんにはすごく良くしてもらっていますし」ときっぱり。

●実家は東大寺のすぐそば●

奈良・東大寺のすぐそばで生まれ育った。「今思うと、凄くいい所に住んでいたなあって。あの頃は、鹿とか東大寺の良さが分かりませんでしたから」と笑みを浮かべる。高校は寮住まいだったが、奈良と兵庫は近く「甘えることもあるし、仙台に来て良かったです」とハングリー精神をのぞかせる。練習が終わってから自分で食事を作る生活は初めてで、「バランスを考え、その日の練習のハードさによってお肉を加減したりし

ます。レパートリーをできるだけ増やしたい」。好きな食べ物は、ずばり「焼き飯です」。

おしゃれにはこだわりがないとする一方、細心の注意を払うのが紫外線対策。「今年は出来る限り顔を黒くしないようにしよう。でも私、どれだけ塗っても日焼けするんです」と、悩める乙女の表情を見せる。

随所に

高い位置でボールを受けたら前を向いて仕掛けるプレーが得意。1 年目はボールを蹴る時間が多かったが、「スピードがない分、体を鍛えなければ」と、今年から練習前に筋トレを取り入れるようにした。

ぞくハ



今季はまだ 1 試合の出場にとどまるものの「チームでは中心選手になりたいし、先を見れば、なでしこの中心としてオリンピックや W 杯に」と目標は大きい。そのためには、ボールを奪う守備力だっ

グリ

たり危機を素早く察知したりといった課題があることを自覚する。「去年より出場回数を増やして勝利に貢献したい。試合に出ないと、あの物凄いベガルタの応援に恩返しできません」。将来はドイツへという夢も持つ 19 歳は、そう言う唇をきゅっと結んだ。

精神

<応援しています!!>

●人懐っこい笑顔、妹のよう●

1 年たって、すごく成長したと感じています。今年、売り場に新人が入ってきて、今まで以上に責任感を持って仕事に取り組んでくれていますよ。笑顔がとても人懐っこく、私たちスタッフはみんな、妹のように接しています。試合に出られず悔しい思いをしていると思いますが、いつでも応援していますので、頑張ってくださいね。

(店長の橋本涼子さん)

文:K. T suge 行先:K. Honma

ベガルタ仙台レディース後援会通信
The Support Association of VEGALTA SENDAI LADIES

ベガルタ仙台レディース後援会【2015 年度第 3 号(通算 13 号)】
5 月 17 日発行

「出張ホームゲーム」でも精力的に活動/石巻・福島・角田

今季のベガルタ仙台レディースは、4 月から 5 月にかけて、石巻(第 4 節・AS 埼玉戦)、福島(第 6 節・日テレ戦)、角田(第 7 節・大阪高槻戦)と、仙台を離れてのホームゲームが 3 試合続きました。ホームゲームでは毎回、会場にブースを設置して活動を展開している私たちレディース後援会。仙台から多少遠くとも、張り切って”出張”しました。

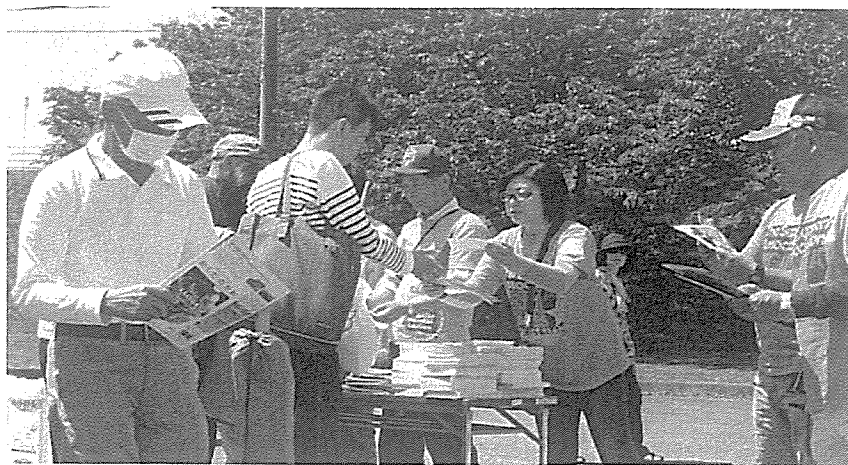
集合時間は、原則としてソシオクラブレディース会員の先行入場が始まる 1 時間前。後援会の役員やボランティアのブーススタッフなど、多い時で 10 数人が顔をそろえました。

まずは所定の場所にテーブルと椅子をセットし、後援会の幟を立てて設営完了。次に、クラブから当日手渡された VL プレスに、皆で手分けして後援会通信やベガルタ関係のチラシを挟み込みます。全部で 1000~1500 部ありますが、人海戦術で乗り切りました。

いよいよ入場開始。次々とやってくる皆さんに「こんにちは、レディース後援会で〜す」「VL プレス、どうぞ!!」と声を掛けながら、手際よく配ります。ベガルタのサポーターは熱心で、どこにでも駆け付ける人が多いのは確かですが、仙台以外のホームゲームだと「初めて試合を見に来た」という人も。中には「このチケットの席はどこ?」と私たちに尋ねてくる人もおり、出来る限り対応しました。

嬉しいのは、ベンチ入りしなかったレディースの選手たちが、事情が許す限りお手伝いしてくれたこと。選手と一緒に呼び掛けてくれることの PR 効果は絶大で、配布物のさばけるスピードが違います。ブースではこのほか、後援会への入会や会員継続の手続き、年度初めに後援会で作製したオリジナルエコバッグの引き換えも行いました。

「出張ホームゲーム」3 試合の成績は 2 勝 1 引き分け。勝利を目指してひたむきにプレーする選手、それを陰で支える選手の姿に、遠出の疲れもどこかへ吹き飛びました。



来場者に VL プレスなどを配布する後援会メンバー=角田市陸上競技場

後援会会員の皆さまへ/会員継続・更新手続きのお願い

2015 年度の更新がまだの会員の皆様は、お手続きのうえ、引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願ひします。ホームゲームの際に、後援会ブースで手続きできます。試合開始 15 分前まで開設していますので、お立ち寄りください。更新の際には、2015 年度バージョンの「後援会オリジナル記念バッジ」=写真=をお渡ししています。

